

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、安心と安らぎ、地域とのふれあい」という地域密着型サービスとしての理念をもとに実践出来るよう、職員会議や毎日のミーティングで話し合っている。	事業所の理念を玄関、共有スペースに掲示し日々確認してもらっているほか、今年には社長にも職員会議に参加してもらい、社長から職員に理念に対する思いを話す機会もありました。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを多くする為、ボランティアの受け入れや地域のイベントには積極的に参加している。	地域の草刈りや防災活動に参加したり、他事業所の納涼際にもご利用者と一緒に参加しています。また、地域の中学生やボランティアにも定期的に来て頂くなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会、地域の集会などを通して地域に働きかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、行政や家族の意見を取り入れ、環境整備なども含め、様々なサービス向上に活かせるよう努力している。	運営推進会議は2カ月に1度開催し、区長、ご家族代表、市担当者、民生委員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは密に連絡を取り合い連携を図っている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が予測される利用者については、医師・家族と相談の上、拘束を行うようにしている。玄関施錠については、利用者の状態、状況によって対応。	言葉の遣い方についても職員会議で指導するなど、身体拘束をしないケアを目指していますが、身体拘束に関する研修は行われておらず、玄関の施錠も調査時点ではされていません。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、定期的に職員に研修を行われる事を期待します。また、センサーを利用している方についてもご家族より同意書を頂く事を検討される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の様子観察を常に行い、異常に気づくことができるよう、研修に参加したり、職員会議で話し合いの時間を設けている。	日々のご利用者の様子観察を常に行い、異常に気づくことができるようにし、虐待の防止に努めています。しかし、身体拘束同様に虐待防止に関する研修が行われていませんでした。	虐待防止の徹底に向けて、定期的に職員に研修を行われる事を期待します。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、研修に参加し職員会議で職員全員が学べる機会を設けたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族から意見や要望を聞くように心がけている。又、家族会、運営推進会議などで提案された物なども職員会議で話し合い、運営に反映させている。	運営推進会議の場だけでなく、年3回のご家族会や面会時にてご家族からの意見の確認をしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や毎月の職員会議と毎日の申し送りで反映させている。	年2回は個人面談を行い、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務にて職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の職員に対する気配りを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に対する支援や法人内外の研修会の内容に応じて職員を参加させている。これからは施設内研修を多くして行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同業者との交流は少ないが、法人内外での交流を多く持ち、サービスの向上に取り組んでいきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とゆっくり話しをしながら、不安・要望等を聴き、安心出来るような関係づくりに努めている。又、広報などでいろいろな情報を提供している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが中心となって家族からの相談内容を聴き、安心して利用して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーが訪問し、本人・家族から意見、要望を聞き取り対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と過ごす時間を大切に、常に笑顔で接し、状態確認をしながら関係を築いている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、家族の意向も取り入れるよう努力している。	事業所広報を送付しているほか、毎月ご利用者の生活の様子をまとめてお送りしています。また、ご家族会にてご家族とコミュニケーションが取れており、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・地域の方々から情報収集し、職員も含め馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	ご家族と職員が付き添い海へドライブに出かけたり、スーパーへの買い物や、近くの食事処へ食事会に出かけるなどこれまでの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態や性格等を把握し、利用者が孤立しないよう、職員の声かけや席配慮を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院者には病院へ様子確認のため顔をだしたりしながら、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが出来る様、日々の生活の中からも情報収集し、記録しながら思いや意向の把握に努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は日々の申し送りで共有されています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、6ヶ月に1度は定期的な情報の見直しも行っていきます。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや職員会議などで話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。	3~6ヶ月に1度は担当職員、ご家族も交え検討の機会を設け、介護計画の見直しを行っています。しかし、調査時点でモニタリングシートが無く、介護計画の期間に空きがある方もいらっしゃいました。	定期的に介護計画を評価、見直しができるように検討される事を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所と連携し、柔軟に対応出来る様取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の様子をまとめた情報を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の身体状態の観察を常に行い、異常があれば看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と連絡を取りながら対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を尊重し、医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の際には事業所の方針を伝え、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、職員会議で勉強会を行い、対応出来る様にしている。	救命講習の参加者から職員へ伝達講習を行っているほか、内部研修でもAEDの操作について研修を実施し、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災訓練への参加や震災車体験、施設夜間避難訓練で避難・誘導を身に付けている。	夜間を想定した避難訓練も行っており、地区の防災訓練にも参加しています。非常用の食品・水の確保もされていましたが、調査時点では量が不足していました。	災害時を想定し、適切な支援ができるよう、食品・水の確保を検討されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議等で話し合いながら注意し、対応している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。広報への写真の掲載についても確認を得ていました。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけしながら働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望にそった支援ができるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるようゆっくり食べて頂いている。又、準備や片付けは出来る方をお願いしている。	ご利用者の能力に応じて調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でも野菜をつかっており、ご利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。近隣の食堂に外出に出かけたり、事業所内でおやつ作りを行うなどし、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう努めています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで自立に向けた支援をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食物を工夫しながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた曜日、時間で入浴して頂いているが、本人の希望があればその都度対応している。	ご利用者の希望に合わせて入浴支援しています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に声かけしながら利用者の求める休息を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで確認し、服薬忘れや曜日間違いが無いよう工夫している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、出掛けられるよう支援している。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に出かけたり、季節に合わせたお花見やはず見学、紅葉狩りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて支援して行きたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方については、出来る限り対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の掃除を毎日行い、花や絵・写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	花も季節に応じ定期的に入れ替え、外出やイベント時の写真を飾るなど楽しめる共用空間となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、洋室、ソファなどを設置し、利用者がゆっくり過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力してもらい、昔の写真や思い出の物、小作品やCD、ラジカセなどを聞きながら過ごして頂いている。	写真や手紙、ラジオ、目覚まし時計など馴染みのもを持参して頂き、居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に危険なものを置かないよう、常に整理整頓している。		